

この歌は、大正元年（一九一二年）もんぶしょう文部省しょうが小学校唱歌四年生にのっている『藤の花』という題の唱歌です。この歌の「」の部分は、たよ女の俳句です。この唱歌は、昭和十年に新しい本ができるまでの二十五年間、全国の児童に歌い続けられました。

へ現代語訳へ

野も山も、春の静かな雨にぬれかすんでいました。やがて晴れてくると、水かさいっぱいになった小川にかかっていた水車が、勢いよく回りはじめます。美しい陽が、小川のそばのしぶきにぬれた藤の花を、きらきらと照らしていました。

この唱歌からみても、市原たよ女の名が、全国に知られたことがよくわかります。次に、たよ女の俳句を味わってみましょう。